

佐久間の民話 興味津々

家康をかくまつた、桶屋の話など

静岡文化芸術大（浜松市中央区）の伝承文学ゼミの学生らが、同市天竜区佐久間町で地域に伝わる物語や伝説の調査を始めている。佐久間町は長く「民話の郷」を名乗ってきた町。新たな発見を掘り起す調査はたやすい中、学生らは意欲的に取り組んでいる。

（野瀬井寛）



文化芸大生 住民に聞き取り調査

住民から民話を聞き取る静岡文化芸術大学の学生（右側2人）＝浜松市天竜区佐久間町で

文化芸大生は、佐久間町の住民に聞き取り調査を行っている。桶屋さん（おけやさん）の話があるよ。今は廃屋になっているんだけど」。住民の女性がふと思い出したように口を開くと、学生は「どんなお話なんですか」と身を乗り出して耳を傾ける。「家康が助かったから、それで桶屋さんは後片付けをしなくていいことになつたらしい」。話を聞くと、学生は笑顔でうなずきながらメモをとつていった。

6月下旬の土曜日、城西

地区の集会所などを高淵早紀さんと辻栄春菜さん、鬼沢知里さん、丸山凜さん＝いずれも（20）＝が訪れていた。高齢の住民らと会話しながら、旧秋葉街道沿いに残る歴史的な言い伝えや、昔話の細かな筋書きなどを聞き取った。

「家康をかくまつたといふ桶屋さんの話があるよ。今は廃屋になっているんだけど」。住民の女性がふと思い出したように口を開くと、学生は「どんなお話なんですか」と身を乗り出して耳を傾ける。「家康が助かったから、それで桶屋さんは後片付けをしなくていいことになつたらしい」。話を聞くと、学生は笑顔でうなずきながらメモをとつていった。

佐久間町の調査は2～3年間の予定で、本年度は城西・山香地区を対象にする。指導する二本松康宏教授によると、佐久間では1980年代に昔話を集めた書籍が出版され、伝説ゆかりの場所に多くの案内看板がある。資料が豊富な半面、編集の過程で伝承が変化している可能性もある。「だが実際に聞いてみると、本にまとめられた話と少しずつ違う話が出た。地域ごとの特色も見えた。地域ごとの特色も見てくるのでは」と期待する。

高淵さんは「初めはお互に緊張したが、少しずつ話してもらえるようになつた。同じ物語でも、話す人によって違いがあるところがおもしろい」と、さらには興味を引かれたといつた。住民の大平友恵さん（95）は「これまで家族からいろいろな話を聞いてきた。自分ではうまく話せないこともあつたが、しっかりと書き取つてもらえたので話してよかったです」と喜んでいた。

ゼミでは2014年から毎年、天竜区各地の民話を調査し成果を出版している。佐久間町の調査は2～3年間の予定で、本年度は城西・山香地区を対象にする。指導する二本松康宏教授によると、佐久間では1980年代に昔話を集めた書籍が出版され、伝説ゆかりの場所に多くの案内看板がある。資料が豊富な半面、編集の過程で伝承が変化している可能性もある。「だが実際に聞いてみると、本にまとめられた話と少しずつ違う話が出た。地域ごとの特色も見えた。地域ごとの特色も見てくるのでは」と期待する。